

第 2 回
諫早市総合計画審議会
諫早市まちづくり総合戦略推進会議
合同会議結果

日 時：令和 7 年 7 月 9 日（水）

午後 1 時 3 0 分～午後 3 時

場 所：諫早市役所 5 階 大会議室

会 議 次 第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題
 - （1）第 3 次諫早市総合計画の体系について
 - （2）将来目標人口について
 - （3）その他
- 4 閉 会

<意見交換>要旨

(会長)

総合計画審議会およびまちづくり総合戦略推進会議は、原則として公開となっております。また、議事録作成のため録音をさせていただいておりますので、あらかじめご了承ください。ご発言の際には、最初にお名前をおっしゃっていただき、その上でご意見をいただきますようお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めてまいります。まず、議題1「第3次諫早市総合計画の体系」について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) ～配布資料により、事務局から説明～

【将来都市像について】

(会長)

ただいま事務局から、将来都市像の案について説明がありました。基本目標や施策分野もありますが、まず、「将来都市像」について、皆さまからご意見をいただきたいと思います。

この将来都市像というのは、行政だけで考えるものではなく、市民と一体になって目指すまちづくりを表すものだと思います。そうした意味でも、ぜひ皆さまのお考えをお聞かせください。

(委員)

この案にはとても賛成です。未来に向けて希望が持てるような雰囲気を感じられ、すごく素敵な文言だと思いました。

一点気になったのですが、「まち」という表記が、ひらがなになっているのは、何か意味があるのでしょうか。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。「まち」という言葉には、「町」や「街」など漢字表記がいくつかあり、諫早市で皆さんが生活している「まち」を表すには、平仮名の方が柔らかく親しみが持てると考え、今回の表記にしています。

(委員)

「来てよし、住んでよし、育ててよし！」は、「よし」が続いていて、言いやすく、覚えやすいと思いました。一度聞いただけで、諫早がすごくいいまちだという印象を持ってもらえる、そんなインパクトのあるものだと思います。

(委員)

この将来都市像案からは希望が感じられました。市として、こういうメッセージを出してくれると、子どもたちにも「夢が叶うまちなんだ」と思ってもらえるのではないかと感じます。

(委員)

最初に聞いたときに、非常に入りやすいフレーズだと感じました。この文言から、理想的なまちかもしれないという期待を若い世代にも持ってもらえるのではないかと思います。

(委員)

この言葉は、市長が普段からよく使われているのですが、聞きなれていない方々にとっては、非常にすんなりと心に入ってくる言葉だと思います。

(委員)

フレーズ自体は良いと思うのですが、気になったのは「将来都市像」という表現の中の「都市」という言葉です。私は前回の総合計画については詳しく把握していませんが、「都市」というと、一般には100万人以上のような大都市をイメージします。諫早のような地域で、あえて「都市」という言葉を使っている理由があるのか、そのあたりの意図を教えてくださいと思います。

(事務局)

現在の将来都市像「ひとが輝く創造都市・諫早」は、第1次総合計画から使われている表現です。第2次計画では、これに加えて「笑顔あふれる希望と安心のまち」というサブタイトルを設け、より分かりやすさ、親しみやすさを出す工夫をしておりました。「都市」という言葉について、ご質問がありました

が、当時はこうした“都市”といった表現がよく使われており、時代背景や流行に応じて採用されたという経緯がございます。

(委員)

フレーズ自体は品があり良いと思います。ただ、「来てよし、住んでよし、育ててよし！」という言葉が、誰に向けたものなのかがやや曖昧だと感じました。市外の人に向けて「来てよし」なのか、市民に向けて言っているのかはつきりしません。私が市外の人間だったら、果たして、諫早に行ってみたい、住んでみたい、子育てをしたい、働きたいと思うかどうか。そのあたりの対象がやや見えにくい印象を持ちました。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。ご指摘のとおり、「来てよし、住んでよし、育ててよし」は、まず耳に残る、覚えやすいフレーズとして採用を考えました。誰に向けてかという点ですが、「来てよし」は市外の方への発信を意識しています。「住んでよし」「育ててよし」は、現在市内に住んでいる方々に、改めて諫早の良さを再認識していただきたいという想いを込めています。

(委員)

提示されている案の中に、「高齢者」や「障害者」、「ひとり親家庭」など、社会的に支援が必要な方々への視点が見当たらないのが少し気になりました。全体として将来の人々に向けたメッセージにはなっているけれど、そうした“弱者”の姿が見えにくいのではないかと感じました。

(事務局)

ご指摘の点についてですが、まず、「来てよし、住んでよし、育ててよし」は、諫早市の強みを生かしたバランスの良いまちということを表したいと考えました。この中で、「住んでよし」には、高齢者や生活困窮者、障害のある方々など、すべての市民が「諫早に住んでよかった」と思えるまちでありたいという想いを込めています。また、子どもたちの成長などについて、「育ててよし」というところで表現しています。「輝く諫早 夢叶うまち」には、子ど

もたちに未来の可能性を感じてもらいたいという想いを込めています。こういったところで、全ての方が含まれているものと思っています。

(委員)

この将来都市像の基となる資料の中からも、地域福祉というものも鑑みられていて、いいのではないかと思います。

(委員)

同じく、福祉のことも市の強みの中に入っていますので、「住んでよし」に含まれているということでよいと思います。

(委員)

第2次計画の「ひとが輝く」のようではなく、「輝く諫早」ということで何が輝くのか、「夢叶うまち」で何の夢があるのかなど興味を惹かれるという意味で良いのではないかと思います。

(委員)

私もこれにすべて包含していると捉えてよいと思っています。非常にリズム感も良く、皆さんも覚えやすい、良いフレーズだと思っています。

(委員)

語尾に「よし」が繰り返されており、とても覚えやすいです。もし加えるなら、「学んでよし」を入れて、生涯学習の充実や、学ぶことの喜びを表現しても良いのではないかと感じました。

(委員)

将来都市像は、現在お住まいの方だけでなく、これから諫早に来る方にも向けたものであるべきと思います。あまり限定的に表現することは避けた方がよいと思う一方で、曖昧すぎると伝わりにくくなるので、今のような形で良いと思います。

(委員)

個人的な意見ですが、「食を満たすまち」という視点も大事だと思います。諫早の食料自給率は非常に高く、こうした特徴をもっとPRしていくべきだと思っています。食に困らないということは、非常に大きな安心感になると思います。

(会長)

多くのご意見をありがとうございました。そろそろ方向性を定めたいと思いますので、この将来都市像案に賛成の方は挙手をお願いします。ありがとうございます。全員賛成ということで、こちらの案を進めてまいります。

【基本目標・主な施策分野について】

(会長)

続いて、基本目標と主な施策分野についてご意見があれば伺います。先ほど「学び」が「育ててよし」に入るのかなど話もありましたが、このあたり含めて、体系的に整理されているかご意見ををお願いします。

(委員)

まちづくりにはエネルギーが必要で、そのためには明るい雰囲気も大切です。検討視点の中に、若者世代や教育に関する視点が入っていることは、未来志向で良いと思います。また、現在高校で「総合的な探究の時間」が必修となり、地域課題の解決に取り組む生徒も多くなっています。大学への推薦にも関係しており、各高校も力を入れています。諫早市には、3つの私立高校と5つの公立高校があり、それぞれ特色も異なっていますので、市として連携を進め、大学とのマッチングについても施策に盛り込んではいかがでしょうかと思います。

(委員)

産業面からの話をしたいのですが、企業誘致をした際には、税収も大きく増えるのでしょうか。人口が今後減少したとしても、企業誘致による税収が増加すれば財政は潤うものなのかお聞きしたいです。また、女性が都市部に流出しているという話がありました。諫早に残るためには、どのような仕事があれば

魅力に感じるのか、どのような仕事に就きたいかということについて、委員の皆様のお考えをお聞きしたいと思います。

(委員)

個人的には、「地域に貢献する仕事」に魅力を感じています。諫早の議員さんと関わりから地域イベントの運営など携わった経験から、地域の方と一緒に活動する中でやりがいを感じました。そういった仕事があることを若者に伝えることで、地元に残る人が増えるのではないかと思います。

(事務局)

先程のご質問につきまして、前回の会議において報告させていただいたところですが、諫早市全体の生産額は約1兆3,000億円で、そのうち約5,400億円を電子部品関連が占めています。税収は確かに増加傾向にありますが、大手企業だけに頼るのはリスクもあるため、地場産業との両輪で地域経済の活性化を進めていく必要があると考えています。

また、税収については、平成20年以降、リーマンショックの影響もあり、長らく170億円を超えられませんでした。令和元年度に170億円、令和5年度は181億円と、過去最高を連続で更新しました。しかし、今後も安定するとは限らず、引き続きバランスのとれた財政運営が必要です。

(委員)

グランドデザインの段階では、全体の方向性を示すことが重要で、細かいことまで踏み込みすぎない方が良いのかなと感じています。社会全体が先行き不透明な中、税制や市街地の変化、高齢化や空き家の問題も複雑です。まずは大きな方向性を示し、各部局で具体的な施策を検討していく形が望ましいと思います。

(委員)

基本目標の5点については、これを定めた後に具体的施策を決めていくという形になっていくので、これで良いと思います。

(会長)

では、この基本目標案に賛成の方は挙手をお願いします。(全委員賛成)
ありがとうございます。続いて、施策の振り分けについてですが、今後さらに細分化されていくことになると思います。この施策分野案については、あくまで今後の施策を行う際の中心的な枠組みとしてご理解いただければと思います。よろしければ、ご賛同の意を込めて挙手をお願いいたします。(全委員賛成) ありがとうございます。

それでは続いて、議題2「将来目標人口」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) ～配布資料により、事務局より説明～

【将来目標人口について】

(会長)

ただいま事務局から説明がありました。将来目標人口について、ご意見、ご質問があればお願いします。

(委員)

正直なところ厳しい目標だと思います。日本全体の人口もすでに1億2,000万人を下回っている可能性があり、2070年には8,700万人になるというデータも見ました。さらに、その1割が外国人になるという見通しです。都市部、とくに東京などは人口が減っていませんが、それは出生率が高いのではなく、全国から人が流入しているからです。諫早市に限らず、若者が都会に出て行くのは、地元には不満があるというより、都市の持つ魅力や選択肢の多さが理由と思われます。実際、諫早市も以前は「消滅可能性都市」の一つに挙げられていました。今は外れているとはいえ、まだグレーゾーンだと思います。20～39歳の女性の流出が大きな指標になっていると思いますが、そう考えると、13万人という目標は掲げる価値があっても、企業も経営が厳しくなれば雇用を減らす可能性がありますし、思い通りに行かない可能性もあり、現実には厳しいだろうというのが私の感想です。

(委員)

13 万人という目標に向けた具体的な施策はこれからだと思いますが、過去に大きな産業団地が整備された時、たとえばソニーの工場ができたときなどに、人口はどのように動いたのでしょうか。そうした人口推移や住宅戸数の変化に関するデータはありますか？

(事務局)

本日はその関連データは持ち合わせておりません。

(会長)

そうした実績データがあれば参考になるので、ぜひ次回以降に準備をお願いします。

(委員)

資料 14 ページに「定住外国人の促進」という記載がありますが、定住とは、結婚して家庭を築き、出産し、教育を受けていくことだと思います。その過程では、医療や保育・教育、言語などの課題が出てきますが、諫早市では、そうした体制整備についてどのように考えていますか？

(事務局)

現在、諫早市で在留資格別では「技能実習」が多く、期間は最長 5 年です。今後は定住につながる外国人材の受け入れが必要になると考えており、そのためには日本語教育の充実が必要ですし、日本の文化を理解してもらうことも重要です。教育面では、すでに市内の小中学校で外国籍の児童生徒が在籍しており、話す言葉は覚えても、読み書きが難しいといった課題もあります。現在は、鎮西学院大学の協力などを受けながら、支援体制を強化しているところでもあり、今後も、一つ一つ課題を克服し、外国人の定住への環境づくりを進めていきたいと考えています。

(委員)

先ほどのソニーの新工場建設時の人口流入についての情報に加え、今後の京セラの工場稼働やゆめタウン開業によって、1,000～2,000 人の雇用が発生する

とお聞きしています。しかし、諫早と大村の土地価格を比べると、大村のほうが市街化調整区域の線引きがない分、土地が安い分、諫早市は、その点で不利です。市として、調整区域の見直しに取り組まれていると聞きますが、進捗状況はどうなっていますか？このままではせっかく雇用が生まれても、大村に住む人が増えてしまうのではと懸念しています。

（事務局）

現在、令和9年度を目標に新たな都市計画（線引き制度の見直し）を進めています。ご指摘のとおり、比較すると土地価格が高めであることは把握しています。都市計画の見直しに向けて、現在市として必要な調査を行い、県にデータを提供しながら理解を得るべく働きかけを進めているところです。県への要望などを通して、可能な限り前倒しできるよう進めていきたいと考えています。

（委員）

あくまで“目標”ですから、私は13万人で構わないと思います。確かに、このグラフを見ると少し難しいようにも見えますが、産業団地の整備や線引き制度の廃止が進めば、周辺から「住みたい」と思う人が出てくるはずです。期待を込めて、この数字で良いと思います。

（委員）

第2次計画では、13万5,000人を目標としていましたが、現在の人口は、約13万人であり、5,000人ほど届いていません。それでも、これから10年間の総合計画として、高めの目標を掲げることが重要です。目標に向けて、どう取り組むかが問われる10年になりますので、私も13万人という目標で良いと思います。

（委員）

「外国人の定住促進」は非常に大事な視点ですが、課題も多く、十分な検討が必要だと思います。また、13万人という人口目標も他地域との人口の取り合いになることを前提にせざるを得ないと思います。日本全体の人口は、今後減り続けていくので、人口を増やすには4世代かかる、つまり100年単位の話だと

も言われています。このような中で、2035年に11万6,000人になるという状況に備え、「その時にどう豊かな暮らしを守るか」という視点でのリスクマネジメントが並行して必要だと思います。

ある自治体では、一戸建て住宅を市が建設し、一定期間住めば最終的に譲渡するといった制度もありました。子ども1人生まれたら100万円支給するような政策もあります。そこまで徹底しなければ、他自治体との差別化は難しいのではないのでしょうか。どの自治体も似たり寄つたりの政策になれば、人は「より土地が安いほう」などを選ぶことになります。このようなことから、この5年間で、詳細なリスクマネジメントを踏まえた施策立案が必要だと思います。

(会長)

この件について、他にご意見がなければ、方向性として賛同いただける方は挙手をお願いいたします。(全委員賛成) ありがとうございます。

【その他】

(会長)

それでは、全体を通して「これだけは言っておきたい」というご意見などがあればお願いします。

(委員)

女性の視点から「諫早に住みたい、住み続けたい」と思える理由があるのか気になりました。どこに住みたいと思うかなど、男性では気づけない視点があると思うのですが、どうでしょうか。

(委員)

子育て世代としては、何かあったときすぐに子どもを連れていける病院が近くにあることや、遊べる公園が身近にあることが重要だと感じます。また、共働き家庭が増えているので、学童保育や放課後のサポートも必要です。子どもを1人で家に残すのは心配なので、安心して預けられる体制が望まれます。さらに、女性の賃金が低ければ、より良い条件を求めて他地域へ移ることにもなりかねません。女性が安心して働ける環境づくりが、結果として税収増にもつながると思います。

(委員)

私も同じような課題を感じています。例えば、保育園に入りやすいことはもちろん、自宅から通勤先に近い保育園を選べるような柔軟さがあると助かります。また、子育て支援センターの充実や病児保育の整備も必要と思います。最近は三世帯同居が減り、地域の関わりも薄れているので、「いつ何があっても大丈夫」という安心感を持てるような、社会全体で支える仕組みが必要だと思います。

(委員)

非常に貴重なご意見だと思います。やはり、生活に不安があると、どんなに便利なまちでも住み続けたいとは思えません。以前は、3～4世代で支え合ってきたものを、今は行政や地域の仕組みで支えていく必要があります。そうした体制を整えることが、人口減少を防ぐためにも非常に重要だと改めて感じました。もっと総合的・包括的な形で支援体制を構築していく必要があると思います。

(委員)

令和9年度を目標とした土地利用の見直しについてお話がありましたが、これが実現した際には、ぜひもう少し土地を安く購入できるようになればと感じています。現在、諫早市に職場があっても、大村市に住んでいる方が多いように思われます。その理由は土地が高くて家を建てられないからであり、競争というより、実際の価格の問題です。もし規制緩和によって、価格を抑えられるようになるのであれば、状況は変わるのではないかと感じています。可能かどうかは分かりませんが、意見としてお伝えします。

(委員)

まちづくりと直接関係するか分かりませんが、今年開催される「ながさきピース文化祭」について申し上げます。諫早市内でも、16事業が開催されますが、市民への周知が十分でないように感じています。こうした文化イベントもまちの魅力を高めるために大切な機会ですので、皆さんのお知恵をお借りしながら、ぜひ盛り上げていけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(委員)

今回の総合計画案は非常に多くの視点が盛り込まれており、よく整理されていると感じました。とはいえ、社会情勢は常に変化しており、今後もより良い形を目指して、必要に応じて内容をブラッシュアップしていくことが大切だと思います。その際は、委員の皆様のお時間をいただくこととなりますが、諫早市がより良くなるためであれば、積極的に意見交換を続けていきたいです。私たちもその一端を担えるよう努力してまいります。感想にはなりますが、以上です。

(会長)

市民全員の声をそのまま施策に反映するのは現実的には難しいですが、それぞれの立場からの多様な声には価値があります。特に、先ほど議論された「子育て」と「住宅」の2点については、他市と比べて明確な特色を打ち出せる要素になるのではないかと感じました。何もかも満遍なく手を広げると、逆に特徴が見えにくくなります。

例えば、小長井地域や高来地域で、「家賃を25年払えば持ち家になる」といった仕組みを実施するのも一案です。あるいは、1人目の出産で100万円、2人目で200万円、3人目で300万円といった形で、全国的に話題になるような思い切った施策を打ち出すことも有効ではないでしょうか。他の市町も同じようなことを言っている中で、人口確保の競争に勝つには、強い特色や大胆な政策が必要です。そのための予算も確保していただければと思います。

本日は以上となりますが、もし他にご意見等ございましたら、お配りしている「質問票」にご記入いただき、事務局までお知らせください。後日対応させていただきます。事務局から連絡事項をお願いします。

(事務局)

今回の会議は、8月22日（金）午後に予定しています。議題は、「総合計画および総合戦略の骨子案」を審議していただく予定であります。詳細については、後日改めて文書にてご案内させていただきます。

また、本日の議事録については、市ホームページに掲載される予定ですので、あらかじめご了承ください。本日はお忙しい中ご出席いただき、また活発なご意見を賜り、誠にありがとうございました。これにて本日の会議を終了いたします。

～ 閉 会 ～